

創造主の

真理の神は一つ

日本の伊勢生成の神は、創造主の真理の教えを宗像といせいなりして祀っている地球生命界の総氏神でそうじかみございます。

日本を守るのは世界中の国と友人になることであって愛情大国となることである。決して軍備ではない。軍備は敵をつくることであり亡国へのみちである。

「民衆がいながらのように力を合わせ権力勢力と戦いましょう。」

小野・出来田内科医 小野俊一先生の合言葉

命の大切さ・伊勢生成の神

著書「神々との誓い参照」

いせいなり

私、加古藤市は平成元年二月二十四日、昭和天皇の大喪の礼をNHK総合テレビで拝見し陛下をお見送りしていた最中、テレビを通して（日本国憲法）九条不戦の絵を見せられ、その夜から、**地球生命界の宇宙産創造の成り立ちを知らされま**
した。

それと時期を同じくして、今から約四千二百年前、天ノ橋立籠神社奥宮の地において、当時人祖伊邪那岐家（天皇家）を継承していたアマテルカミ尊（男）に、人祖「初代」伊邪那身命（女）がお出ましになられ神の宗像を伝えられている情景を夢で見せられました。

その神より全ての生命は約七百二十万年前、

日ノ本の国に降ろされ、日ノ本は

全ての生命が誕生した生命発祥の身生れの聖地であると拝受したアマテルカミ

尊（男）は、人間が食べ物連鎖の大自然まで破壊に導く事がないように、生命界を

護り何時いつまでも後世に伝え遺して行くために、総ての物事「動植物」に、
 総てを通じ合わす事が出来る知瑠恵（食べて食べられ産まれて生む。輪廻転生して行く恵から
 恵を生むこと）と御難賛助の意志（難しい事でも、お互いに話し合い賛助して行く意志）を持つこ
 とが一番大切であると悟られ、直ちに伝えていく証となる伊勢生成の神（植物動
 物人間が平等に生きるなり。人間の驕りで生命界を破壊に招かない為の意志）を天照皇大御神と
 名付け、此の世に唯一度だけ神の宗像を身生れの神殿として造営されお祀りさ
 れました。（現在の京都府宮津市籠神社奥宮の地）

アマテルカミ尊（男）は、天皇家の分家、十八家の頭首と共に切磋琢磨協議され、
 伊邪那岐家を齋王家（天皇家は人類のご先祖の家柄・天下をお治めになる家柄）と改め、分家
 十八名を豊受大臣として、伊勢生成の神にご奉仕する臣人（天皇・人類を代表するお方・
 国王とは違う）・臣族（天皇を補佐する）と導かれ、地球生命界の東西左右基の基分けの
 神筋山（現在三重県伊勢市神路山）の麓、五十鈴川の辺に元伊勢天ノ橋立籠神社奥宮

より伊勢生成の神にお遷りいただき、身生れの神殿が造営されました。（伊勢神宮）

その後、伊勢生成の神を地球に生きる総ての生き物の志合せ安寧の為に、九州
 宗像大社に道主貴という奉行を遣わせ、天照皇大御神の分け御魂・伊勢生成の
 神をお祀りし、迦護目の御神紋と豊受大臣（天皇家と十八家の分家の国常立尊）の聴区
 （観聴区）の紋章を授け、宗像大社から大陸を西へ西へと伝え、大陸の中程で釈迦族
 の釈尊によって、佛教で現し伝え花と咲き、さらに、アジア大陸の最果ての地、
 イスラエルの地にて、モーゼによって花開いたのがキリスト教でございます。

このように伊勢生成の神を基にして全ての宗教が起こり、佛教やキリスト教とな
 り伝わって行ったとの御啓示を私加古藤市は拝受しました。ゆえに世界恒久平
 和は全人類が願っているのです。真理は伊勢生成の神の教え一つです

私・加古藤市はアマテルカミ尊と同じ神の宗像を拝受した使命を背負い、世
 界恒久平和を迎える為に、人類始まって以来三人目となる東核世種大伝道師（東

の太陽のエネルギーにより全ての生き物を育み育てていると言う事を伝える者」としてお役目を
いただき、人間のひとりとして昭和天皇の大御意志（日本国憲法第九条）を世界中の
人々に伝え守り貫いて行くための活動氣を二十五年間してまいりました。

伊勢神宮は今年式年遷宮を迎えています。

持統天皇は一度風化した伊勢神宮をお建て替えになり 風化させない為に二十年毎の式年遷宮を定められました

約四千二百年前に祀られた伊勢生成の神（植物の雄蕊と雌蕊・動物の雄と雌・人間の男女
が平等に生きる成り）を大陸に伝え、佛教とキリスト教で花咲き開いた教えを、日ノ
本の日本国の権力側は、神武天皇を初代として約二千六百六十年の歴史（現在）で
語りはじめ、伊勢生成の神を消して、出雲大社（天皇家と分家のご先祖・十九名の国常立尊
を祀る）を造営してしまいました。伊勢神宮より大きな建物を建立して伊勢神宮の
存在を、約六六〇年間風化させてしまいました。

十代崇神天皇・十一代垂仁天皇の時代に、皇女豊鍬入姫と倭姫を使者として遣
わし、伊勢生成の神を改めて祀り現わそう（外宮の造営）と各地域の分家のご先祖
の地（各地に元伊勢として祭られている神社の地）に赴かれ御魂集めをされましたが、伊
勢の地に入る宮川を渡る手前で権力側は、外宮の造営を中断し、内宮まで風化さ
せた事を知り、倭姫は現在の明和町斎宮跡まで泣き泣き戻り、集めた御魂と伊勢
生成の神をお祀りされ齋王を務められました。

十二代景行天皇の皇子日本武尊は、倭姫からアマテルカミ尊の胞（臍の緒）と
民草和氣の劍（天皇継承の劍）を預かり、胞は岐阜県血洗神社（アマテルカミ尊の誕生地）
に納め、民草和氣の劍は熱田神宮の元宮（現在緑区大高の日神山）に納め、「争いをし
ない魂（御難贊助のこころ）」の活動氣をされましたが、これさえ権力側は民草和氣の
劍（天皇継承の劍・民草の和の氣）の魂より人間日本武尊の鎮魂と変え封じ込め、
劍は草薙劍に替えて戦勝優位（人間の思った事が何でも叶う願い）の熱田神宮にして

しまいました。

二十一代雄略天皇の時代に、風化していた内宮を再建しましたが、人間の先祖を祭り、また、皇女豊鍬入姫と倭姫が出来なかつた外宮(宮の外)の造営には、内宮(宮の内)の造営に協力された天皇家と十八家の分家の豊受界の方(十九名の国常立尊)をお祀りするはずの思いは届かなく、五穀豊穰の神祭りにしました。

四十代天武天皇の古事記・日本書紀の編纂に至っては、建国発祥の物語である御難賛助(人間人の心は弱き物故、楽身生身に溺れ、食べ物連鎖の大自然までも破壊に招かない為に、お互いに難しい事ですが賛助して話し合っていく)の御誓約(誓い約束)を、中心になつた天皇アマテルカミ尊(男)を女神様に仕立て、豊受大臣(分家)の長・弟ハヤスサノ才尊とを近親相姦にして五男三女(兄妹同士)の宇気比として建国の物語を消した事で、伊勢生成の神は一気に神罰を掛け、終に天武天皇は脳を患い倒れ臥してしまいました。その時の倒れかたを見ていた周りの方々も恐ろしく、次期天皇にならない方がいませんでした。そこで皇后が持統天皇となり、

天皇家を代表され伊勢神宮の造営に携われた方々(アマテルカミ尊・ハヤスサノ才尊・サルタヒコ尊と無血を持って国譲りした饒速日尊、そして尾張族の長・建稻種尊と日本武尊に、お詫びの為に伊勢国・美濃国・尾張国を巡る、次の①から⑭までの伊勢湾を一周する民草和氣の倫理をご巡行されました。

① 伊勢神宮

生命界全ての民族を導いていく、神の宗像を総氏神として祀っています。

此の世に生きる総ての生き物が、飢える事無く、諸々の禍事なく立派に成長でき、生成の神仕組みを以って、父母父母の身親と成ることが出来適います様に、御神饌(生の野菜・果物・魚等)の氣魂を遍くお配りくださいませ。と御参りする場所

よさのみてんのう
與謝身天皇（全人類代表して、生命の神々に地球上の総ての生命の生成発展を祈る大祭司長としての
役目である）は、天照皇大御神の御神聖「民草和氣の御神氣」に従い、政を司
り、日出ずる日ノ本の国是「人権民権を大きく和して、天が下を一軒の家と為す」
八紘一字の御神聖を守り、国体の名誉を忘れては赦されないので御座います。
日本の天皇は統治天皇になってはならないのです。

② 椿大社

当時、伊勢湾を境にして西国と東国に別れていました。二つの国を統一
した国家を建設するために、北伊勢・多度の天王平にて、兄アマテルカミ尊
（西国）と弟ハヤササノ才尊（東国）を、ご会見に導かれた猿田彦尊を祀っていま
す。

③ 魂活水

（魂を活性させる）

椿大社から多度天王平へ向かう道沿い、現在菰野町下村にある清水場。

御難賛助していくには、己の生命までも捧げ尽くし切ることが出来る

やまとたましい

大和魂（大きく和していく）に成らなければ成らない」と、アマテルカミ尊、ハ
ヤササノ尊・猿田彦尊・日本武尊等、当時の日本を統治していた方々が、何
度もここを通られ、清水を飲まれ魂を活性させた場所

④ 野代宮跡（多度郡多度町下野代）天王平の遥拝所

倭姫は御杖代となり此の地に住み、無血を以って統一国家建設に力強く協力
された臣人（天皇家）と臣族（天皇を補佐する分家）豊受大臣の十九名の国常立尊の
御靈魂集めをされ、天王平の「天目一個命」に登頂一千日の願掛け祈願を
された場所

⑤ 天王平

天王平に残る太古の史実、あわや大戦争に成らんとした時、猿田彦尊の仲立
ちにより、兄アマテルカミ尊と弟ハヤササノ才尊とがご会見され、「御難賛助
の御誓約」をもって統一国家建設に導き、天界の中心「天津彦根」に一目連
になる三津（天界・生命界・靈界）の基督の神力氣（基本と成る神の力）の象徴・日
輪太陽を「天目一個命」とお呼びされお祀りして、この山を天の王の平

天王平」と名付けました。

⑥ 喪山

饒速日天皇は神倭伊波礼畏古尊が大和国（日本国）に進出した時、熊野大斎原の皇祖皇宗の御靈魂所（熊野本宮・墓処）を占拠した上で、「従わねば撃ちてし止まん」と激しく突き上げ談判したので、「我一人が我慢をすれば、双方共に多くの若者の生命を救う事が出来る。」と無血を以って政權譲渡国譲りをされ生駒山の孔舎衙坂（現在石切神社）に有った大和政庁から追われて、伊勢の海を大境として美濃国に続く、垂井の現在の相川に辿り着かれ、河を渡って国譲りされなかつた尾張族の勢力下の小高い丘の上に登り、相川を眼下に治め、遙か西を眺め、

昨日までは天皇としての我が領地で有ったものが、総てが喪してしまった感慨の中に「生きながら我も又喪人となってしまった。」と仰せになり、それ以来この山を喪山と呼ぶようになったのです。

⑦ 金産山

金の幸と罪

現在の金生山明星輪寺（岐阜県大垣市赤坂）

美濃国の赤坂の地にある金や銅の鉱石を産出する金産山を巡って、西国を統治していたアマテルカミ尊と東国を統治していたハヤスサノ才尊とが大八洲を二分する、一触即発の危険な状態になった所以の場所。

持統天皇は金を生かす山（金生山）と名前を替えて鎮護国家の道場として立て替えました。

⑧ 笠縫水分子守神社（現在大垣市笠縫）

金産山の麓にある川・杭瀬川に杭を打ち、金産山から産出した銅と金とを分

ける尾張の国の八つの踏鞴精錬所がありました。

「八雲立つ」とは此の精錬所から黙々と煙が天に昇っていく様子を言うのです。

中部地方を中国と言ひ、中国が日本の中心産業があつた場所です。

当時、鉄を制する者は天下を制すると言われていました。

⑨ 伊久良河宮（岐阜県瑞穂市居倉・神明神社）

ハヤスサノ才尊はアマテルカミ尊と天王平で御難賛助の御誓約をし、相互訪問を約束しました。先ずハヤスサノ才尊がアマテルカミ尊を訪問され、ご相談して尾張族の長として伊勢生成の神を謹んでお受けになり帰りました。

ハヤスサノ才尊は直ぐに尾張国の踏鞴精錬所の北抗瀬の川上、根尾川の辺の居倉の里に伊勢生成の神を祀り、自らの身体を根尾川の清流で清め、三七の

神業をしました。

その後、金産山の鉱石を、尾張国の踏鞴精錬所に運ばれ、その鉱石より取り出された金を以って伊勢生成の神の御神性「民草和氣の御神氣」を御自身の手で打ち込まれ、鍛え上げられたのが「御難賛助の御誓約」の証・天皇継承の剣でございます。

⑩ 酒見（逆身）神社（愛知県一宮市今伊勢）

神武天皇に無血を以って政權譲渡国譲りされた饒速日天皇が、尾張国現在の酒見神社に数人のお供と共に身を隠しわび住いされた地。

⑪ 洲崎神社（名古屋市栄）

東国を統治していた弟ハヤスサノ才尊の館跡

⑫ 日神山神明社 尾張族の長・建稻種尊の館跡（名古屋市緑区大高町日神山）

伊勢生成の神が尾張族により祀られた場所・神明社を元宮といひます

景行天皇（神武権力側）は、尾張族を壊滅する為、第二皇子日本武尊に蝦夷征伐（えぞせいばつ）の勅命を下し、尾張族の長・建稲種尊に副將軍を命じ遣わせたが、戦争せず（ちよくめい）に話し合い、和解して凱旋して帰る途中、尾張族の長・建稲種尊は暗殺されてしまいました。

持統天皇は、尾張族の館に住む建稲種尊の妹・宮主姫にお会いされ、氷の上（だけいなだねのみこと）に座らせて重大な悪人のような仕打ちをしてみました事に天皇家を代表されお詫びし、氷上姉子神社を建立されました。

⑬ 幡頭神社（西尾市吉良町）建稲種尊の墓処

景行天皇（神武権力側）は日本武尊に蝦夷征伐の勅命を下し、尾張族の長・建稲種尊（だけいなだねのみこと）に副將軍を命じ遣わしましたが、日本武尊と建稲種尊の二人は、戦争せず（えぞせいばつ）に愛の産霊をもつて話し合いで解決して、日本武尊は陸路、建稲種尊は海路の

帰路でした。

建稲種尊は駿河湾沖で必殺の閃光を微かにかわし避け、深手の苦しき息の下（ひっさつ）からの遺言は（せんこう）

「直ちに軍を二つに分け、一軍は速やかに日神山の宮主姫の元に帰り、後の一軍は神武派の動き出方を見極めるため、三河の尾張の国境・猿投山に待機して備え弓矢を引くべからず」と命じ、

「我が遺体は年魚市瀉（愛知県の名の元）の館（尾張族の館）に運ばず、幡豆の萩原（あゆちがた）欠けの港に運び（葬儀した場所）、志摩の神筋山を一望する事が適う幡豆岬の吉（かみじやま）良の山（墓処）に葬るべし」と遺言され天に召され逝きました。

⑭ 伊雑宮（アマテルカミ尊の館跡・伊勢志摩）

渥美半島の伊良湖岬から船に乗り神島を敬い伊勢志摩の伊雑宮（アマテルカミ尊の館跡）までのご巡行でした。

持統天皇は約六百六十年消されていた伊勢神宮を再建し、同時に、今後伊勢神宮を風化させないために二十年毎の式年遷宮を定め、そしてご巡行されてから風化していた次の五社をお建て替えになりました。

○金生山鎮護国家の道場（金産山を、金を生かす山に名を替え建立しました。現在明星輪寺）

○多度大社（山の頂^{いただけ} 天王平に祀られていましたが、風の当たらない麓の現在の地に移し替えました。）

○酒見（逆身）神社（饒速日^{にぎはやひ} 天皇が神武天皇に無血で政権を譲り、落ち延びて住まわれた場所。）

○氷上姉子神社（尾張族の長建稲種^{だけいなだねのみこと} 尊の妹・宮主姫に対し氷の上に乗せた仕打ちにお詫びしました。）

○幡頭神社（境内から伊勢神宮を遥拝できる場所に、尾張族の長^{だけいなだねのみこと} 建稲種^{だけいなだねのみこと} 尊を祀りお詫びされました。）

伊勢神宮に祀られた神は、伊勢（植物の雄蕊^{おしべ}と雌蕊^{めしべ}・動物の雄^{おす}と雌^{めす}・人間の男女）が平等に生きる成りであり、人間が驕^{おご}りの考えをすれば地球生命界の消滅になると御啓示を拝受したアマテルカミ尊が祀られた、大きな理^{ことわり}を伝えている天照皇大御神でございませう。著書「神々との誓い参照」

伊勢神宮へ

「不戦の誓い」の証の神聖画奉納

伊勢神宮に神聖画を奉納に行ったとき、神宮司庁社の二階の応接間で少宮司様に、私の著書「神々との誓い」の原文も読んでいただきました。

少宮司様は、今、日本の古事記・日本書紀に基づき皇學館で学んで神祭りをしています。土の中から二六六〇年以前の物が出土していますので、この本を早く出版して下さい。教科書として使って行かなくては成らない時がきました。」と言われました。

その後、「御身生れ祝詞^{おんみあののりこと}」の御啓示に従い原文が出来上がったとき、その少宮司様に直接電話で約束をして再びお会いする事が出来ました。

そのとき迦護目の紋が伊勢神宮の神紋（イスラエルのマークではない）であり、中心に天皇を置き分家の十八家を花びらで顕^{あらわ}したのが天皇家の菊の御紋である事を伝えました。

少宮司様は「十八弁の菊の紋はこう言う意味があったのですね。」と言われ、私

かぐらでん
たちに神楽殿へ行くよう勧められ、神楽殿の受付に着くと直ぐ巫女が案内して
みこ
くださった部屋は、待合室の一番奥の客殿でした。抹茶を運ばれ「神楽の準備が
かぐら
出来るまでこの部屋でお待ち下さい。」と言って部屋から出られた襖の取手が十
ふすま
八弁の菊になっていました。
とって

少宮司様は伊勢神宮のこの部屋に、十八弁の菊が遺されていることを私に伝え
のい
たかったのでしょうか。

元伊勢へ

「不戦の誓い」の証の神聖画奉納

元伊勢「籠神社」海部光彦宮司をお尋ねして、神聖画を奉納した時に、宮司が
元伊勢を語るならば、この神社の奥宮・真名井原丹庭が人類発祥の地である事を
伝えるよう言いましたが、海部光彦宮司は、

【加古さんは神社庁が怖くないからそう言いますが、とても言えません。】と神社
のこわ
庁が牛耳って、真の神祀りを消してしまっていることを実感しました。

元伊勢の奥宮・真名井原丹庭を消す方が神社庁に都合が良いので、籠神社は、
にぎはやひ
饒速日天皇が罪人とされ「籠」に乗せられ流刑された史実を遺している神社とし
のこ
て祀られているのです。

神武天皇の東征の砌、戦争せずに国譲りした饒速日天皇は、御先祖の系譜を
にぎはやひ
神武天皇に渡す事が出来ませんでした。饒速日尊は籠神社の地にいた海部族に
のこ
系譜をお渡ししたいと申し出ましたが、「このことで危ない。」と受け取りを断られ、
にぎはやひのみこと
饒速日尊を罪人・香語山尊として籠舟を仕立て、彌彦島を常世の国と目指し、
かごふね
やひこしま
とこよ

真名井神社から真嶋港まで歩いて逃したのです。（今も元伊勢の真名井の井戸の脇に旧
のこ
香語山街道と石碑が建ててあります）
かこやまかいどう

この道は天皇に即位した時の晴れやかな御姿で歩かれた道でありますが、この
のこ
度はみすばらしい罪人としての姿の行列を見送る民衆は悲しく浦島伝説で今
さいにん

も伝えていきます。(全ての生命は日ノ本から参照)

日本は蒋介石閣下の恩を忘れてはならない

蒋介石は基督きりすと(伊勢生成の神)いせいなりかみ信徒しんとでした。

蒋介石は中国の父・孫文を師と仰ぎ、社会主義思想の持ち主でした。帝国主義(軍力で意のままに行く政治)の日本国は、そのような中国に侵略して行ったのです。そこでアメリカ・イギリスの資本主義の国が蒋介石に加勢して、中国は日本に勝利をしたのですが、これからの世界は資本主義ではなく社会主義を打ち立てていかなければならないと願う蒋介石は、中国の資本主義の考えを持った人達を全部引き連れて台湾に隠遁いんとんしたのです。そこで中国には資本主義者の影がなくなり、アツと言う間に社会主義国になったのです。

蒋介石は日本と中国を一つにした社会主義の思想を呼びかけ、世界に伝えようとなりましたが、日本の資本主義者は蒋介石の呼びかけに応じる事が出来ませんでした。

一九四三年十二月一日に終戦処理を巡って連合国側から「カイロ宣言」が出され、後の「ポツダム宣言」のひな形が作られました。

故長谷川太郎さん(後記)は存命中、台湾で終戦処理たすきに携おわって居られた方でした。中華民國の蒋介石主席とアメリカ合衆国のルーズベルト大統領との間に交わされた機密会談の内容、「ポツダム宣言」の冊子(永遠の平和を求めて)を佐光茂三郎さん(後記)を通して私加古藤市に届けて下さいました。

昭和二十年八月十日、まもなく日本が投降するのを見越した蒋介石自ら筆を執とられ、原稿を作成、八月十四日録音、翌十五日午前十時(日本時間十二時)重慶より放送された終戦のメッセージ(私が夢で見せられた)は昭和天皇の終戦の詔勅しようちよくがされる一時間前の事でした。メッセージは日本に対する四つの戦争処理でございました。

- 一、中国に在任していた日本の軍人と慰留民、二百余万人を無事復員させる事。
- 二、捕虜も作らずポツダム宣言で決めた十九兆円の賠償金を放棄する。
- 三、日本列島の四分割占領に付いては、日本の将来のために一つにして置かなければならない。
- 四、天皇処刑の事は、日本人自身が決める事であり、他国が口出しする事すでに

侵略である。(私がこの夢の話をしましたら長谷川様が「永遠の平和を求めて」を届けて下さいました)

以上のように、蒋介石は日本を許し、寛大な御意志により全世界に向けてメッセージを出されたのです。

その後、日本は昭和天皇により全世界に「絶対に二度と戦争は致しません。」と神に誓った憲法第九条を発信したのでございます。

日米安全保障条約の名の下に核密約を交わし、いつでも核兵器が作れるよう国民の税金・血税を使い次々と原子力発電所を作り、日本列島をアメリカの前線基地にして、幾つもの米軍基地を備えさせ、基地内の米軍兵の利用する施設を用意し、日本人を雇い、アメリカは日本に貢献しているように見せかけているのです。

そして、世界中で現在も起き続けている戦争も環境破壊問題も解決の方向へ動かず、最近起きた3・11東日本大震災の放射能汚染の後始末も出来ていないのに、日本の安倍首相は、アメリカとなかなか縁が切れず、参議院選挙で自民党が大勝して自分達が主人公と思いい、経済こそ最優先と主張して原発を再稼動し、さらに原発を海外に輸出しようとしてアメリカと一緒にあって、世界恒久平和を唱

えながら、資本主義に拍車を掛け混乱へと導いています。

安倍首相にはポツダム宣言で蒋介石が連合国に「日本は野蛮な国だが許さなければ世界恒久平和を迎える事ができない。」と言われ、連合国で日本に憲法第九条を持たせた事の意味を深く理解していただき、世界恒久平和に導く活動氣をしなければ伊勢生成の神に背くこととなります

故長谷川太郎さんとの出会い

故長谷川太郎さんはきりすと基督教(伊勢生成の神)信徒でした。

「きりすと基督教では絶対不戦こそ信仰の踏み絵だと信じ、自分の天職(キリスト教の牧師)は中国に対する日本国の贖罪の為に終えるつもりであります。このことの為なら何でもしようと思っっています。」

と戦争の相手国・中華民国へよく行っていました。

長谷川太郎さんは平成五年四月二十九日（昭和天皇誕生日）、私加古藤市が東京で
世界平和憲法の小冊子と「神聖画」を有志の方にお渡しした中のお一人でした。
皆様にお渡ししている小冊子などの出版物は、私が研究して発表したのではなく、
神から全部夢や御啓示を頂いて書いてある事を話しました。

故長谷川太郎さんは、私がお渡しした「世界憲法の配布」の小冊子を絶対不戦
の高唱（高く唱える）と捉え、神聖画を心の琴線（心の奥底）に触れたとも言い、解
らない所もあるので全部知りたと言われ、又、こんな記事をなぜ神が書き示め
させているかに興味を持たれ、特に平成元年二月二十四日「昭和天皇は自国の原
爆製造を厳しく戒め禁止された。」ことなど不思議に思っ、中華民国から日本
に帰って来るときは、いつも手紙で日時を知らせて来られ、私の家に三十回以上
お泊まりして、いろいろなお話を聞いていただきました。

故長谷川太郎さんは平成七年十月二十九日、民間の病院で倒れ、その後、十一
月二十二日キリスト教の病院に移転され、その年の暮れに昇天されたお方です。
たった二年八ヶ月の短いお付き合いでしたが、

生前私の語った事、「世界憲法の配布 意識文」を書き残してくださったお方
です。

佐光茂三郎さま

飛騨金山に蒋介石閣下を祭った方。

今年九十八歳、多治見市田代町ハイリタイヤ多治見に在住しております。

ある日、私は故長谷川太郎さまと一緒に飛騨金山から下呂に向う途中、中山七
里の谷の国道四十一号線、JR高山線の線路が平行に走っている斜面に（旧街道沿
いに、国道から階段が遺されています）蒋介石閣下の肖像画と石碑を見つけ、つり橋を渡
って地元の方に訪ねました。そして、多治見に住まわれている佐光茂三郎さまの
電話番号を教えてください。家を訪ねたのが最初でした。その後、佐光茂三郎さ
まに連絡して、飛騨金山へ一緒に何度も参拝した事があります。

佐光茂三郎さまはマレーシアの米の二期作のために現地の人と協力した日本
人農業技術者です。昭和十年満州事変・支那事変に参加され、各地に転戦し銃機
関銃隊員として、中国での数々の歴戦で武勲を立てられ、金鷄勲章を授与され
ておられます。

「日本は蒋介石閣下の恩を忘れては成らない」と、自腹を切って約六〇〇坪の
土地を購入し、昭和五十五年五月五日、蒋介石閣下の石碑と自画像を納める額

を、街道を通る誰もが目にすることが出来る角度に祭り、蒋介石の恩を忘れな
いように伝えてこられました。(そこには誰の手によって祭られたとは記されていませんでした)
佐光茂三郎さんは子宝に恵まれず奥様にも先立たれ、家族も絶え一人きりにな
り、施設の中でお住まいに成られてからも、飛騨金山へはお参りに行っていました
たが、ご高齢になり維持して行く事が難しくなり、小屋や蒋介石の肖像画の額を
撤去する事になった平成二十一年六月十二日、肖像画を私加古藤市に託され届け
られました。それからは私の家の豊受庵に掲げ皆さまに蒋介石の恩を忘れないよ
うにお伝えしています。

今年九十八歳になられた佐光茂三郎さまの元に、最近なぜ詩吟神風流神奎会々
長・竹村武夫さまが訪ねて来られたのか分かりませんが、七月四日、下呂へ観光
に行く途中、飛騨金山の斜面に「蒋介石閣下」の石碑が立っている場所へ、数名
の方を案内された手紙をいただき、施設に突然訪問されました。また、七月十一
日、竹村武夫さまの友人豊田寅義・あや子さまのお手紙では十年ほど前、見て知
っていました。竹村さんからの手紙をいただいて佐光茂三郎さま個人が建立し
たことをはじめ、知らされた事、そして、竹村武夫さまのお手紙には「金山の山
中に立派な名を残され、誰にも真似の出来ぬ業績をまことにお目でたく、心より

お祝詞しゆくし申し上げます。」とありました。また、私加古藤市もその手紙を拝見し、
佐光茂三郎さんの業績を継がれ、これからもその場所を維持していかれる方がい
らっしゃると紹介しているようなことが書かれてあったと記憶しております。

又改めて平成二十五年八月九日(金)長崎原爆記念日に、佐光茂三郎さまから
私加古藤市へ次に記した文章が二枚の紙に分けて送られてきました。

国民の皆様へ

終戦日の日が大切か。

ポツダム宣言が大切か。

蒋介石閣下の大恩が大切です。

平成二十五年八月八日 佐光茂三郎 九十八才

八月十五日をポツダム宣言の日と定め

日本国民の皆様方に宣言下さること

お願い申し上げます

平成二十五年八月八日

佐光茂三郎 九十八才

日本国民は憲法九条がどのようなにして出来たか、
本当の意味を知ってください。

柴田典明さま

柴田典明さまはきりすて基督いせいいなり（伊勢生成の神）しんと信徒です。

今年平成二十五年一月二十五日、豊受庵にはじめて紹介者に誘われて来られました。名刺を戴きまして豊田市亀首にあります教会をお持ちの牧師さまと分かりました。

早速、私の著書「神々との誓い」に紹介文を書いてくださった故長谷川太郎さんのお話を伝えましたところ「私の大先輩です。」と言われ、神は一つですから、キリスト教も同じ一つの神です。よく人間が神に成ったり、物や動物・風土を神という人がいますが、神はひとつです。人間や動物などは神にはなりません。」

と、今まで元ひとつを語ってきた私は、故長谷川太郎さんの生き写しのようなお方のご縁を戴いた事に力強く感じ感謝いたしております。

柴田典明さんは、五ヶ国語を語り書くことも出来るとお聞きしましたので、聖画を五枚と添え書をお渡しして、五ヶ国語で添え書を作成していただき、世界に広めて下さることをお願いいたしました。柴田典明さまは、今年六月十日、八十歳の誕生日を迎えると同時に、牧師を定年するこの時期に、ご縁をいただき、これからはクリスチャンの信者・人間ひとりとして、世界恒久平和を迎えるように働いていきます。」と言って下さいました。

今、数人（外国人も含め）の方を中心に、北朝鮮・韓国・中国へと対話への働きをしてくださっています。

この様に隣国が対話に入っている七月二十九日、日本では自民党が参議院で大勝し、麻生副総理（奥さまは三笠宮崇仁殿下の娘・信子さま）が、憲法九条を改悪する講演でナチス発言をして隣国を混乱させています。

三笠宮家は天皇家を補佐する家柄、天皇も憲法九条を改悪するかのようになっています。

権力勢力の実体験

31

天皇陛下の御詞「核は平和に使って下さい。」を電力会社のコマーシャルに利用しました。

船橋一華さんの紹介にて財団法人進化生物学研究会に所属している弓月白鹿さまに、私が天皇家に九条不戦「神聖画」をお届けしたいことを伝え、平成十九年六月に東京で執り行われる研究会にお誘いを受け秋篠宮殿下にお会いする予定をしていました。

しかし、直前の五月二十七日早朝、脑梗塞で左手足の麻痺となり病院に緊急入院してしまいました。人間の左側は神の知らせを意味するので、神が何を私に知らせているのか分かりませんが、病院に入院した数日後の六月初め「核は平和に使って下さい」とテレビを通して今上陛下の御詞を目にしたとき、天皇が権力側に利用されてしまう靈魂では、秋篠宮殿下にお会いするまでもなく、神は私の足を止められたことを実感しました。

おのみごころ

神の大御意志より、今上陛下の名の下に、熱田神宮の元宮（名古屋市緑区大高町氷上山の地）、日本武尊が剣を納めた地に、昭和天皇の御靈魂をお迎えし、世界恒久平和を導くことが日本国のお役目であると御啓示を頂いております。

私は平成二十一年十二月四日より、左足の機能回復するため係り付けの先生に書類を作っていたいただき、要介護2の居宅サービス認定を受けています。内科・歯科・在宅マツサージなどのお世話になる先生に資料をお渡しして読んで頂くことで、「九条不戦」世界恒久平和を伝えいくことを生きがいとしてきましたが、今年六月より、共和病院の通所リハビリテーションに通い始め、私の事を知って頂きたく、資料をお渡ししましたところ、「私たちには関係のないことですのでお返します。ケアプランあすかのケアマネージャーさんからも言われています。」と、家に送ってきた人が平然と資料を水野さんにつき返してきたのです。

「何のためのケアですか。患者が何をしている人が把握してケアするのがケアマネージャーの仕事ではないですか。貴方たちは経済優先で気に入らなければ断ってもいいです。という事ですか・・・？」と私を世話してくれる水野さ

32

んが憤慨ふんがいして注意をうながしてくれました。

どんな仕事をしていても政まひんに、民衆がいつもチェックしていなければ権力勢力の意のままになってしまいう事に気が付かない限り、世界恒久平和を迎える事が出来ないのです。

竹田恒泰 明治天皇の玄孫

平成二十二年十二月二十三日、今上陛下のお誕生日に、竹田研究会の靖国神社参拝と竹田恒泰さまの講演会をネットで知り、名古屋から仕立てられたバスに乗り豊受界水野延子さんと鶴飼千代子さんの二人に日帰りで参加して頂ました。

水野延子さんは最初どのような会か解りませんが、バスの中で天皇家に関係するビデオを見て行く内に、私加古藤市が日本の役割として、初代伊邪那身命の御啓示を受けている事と、竹田恒泰さまがご研究されていらっしやいます。「日本国を愛する歴史」のお話に通ずる物を感じ、二人は帰りのバスの中で竹田研究会に入会しました。

水野延子さんには、新年を迎えた一月十六日、名古屋アパ・ホテルの「君が代」講演会の会場に、「神聖画・「神々との誓い」」など著書を竹田恒泰さんに贈呈していただきました。

二月の講演会には、竹田研究会事務所に送付した資料、その内容は、「天皇陛下を電力会社のコマーシャルに使い「核は平和に使って下さい。」とテレビで、平成十九年六月と平成二十二年秋の二回放映された事が書いてある、私の肉印を押した一枚の資料でした。

講演会当日、水野延子さんは秘書の金子さんから声を掛けられ、「このような資料が送られてきましたでしたがこれは破ります。」と言ってその場で破棄してしまいました。「アッ」と言う間の出来事だったようです。**核は平和にも使えないのです。**

そして、三月3・11東日本大震災が起きてしまいました。

加古藤市の神から御啓示の資料を無視した証が、生命界地球の未来を左右する大きな原子力発電所の放射能事故を起こし、今も放射能の後始末ができなくなっています。

竹田研究会には私加古藤市も名古屋講演会に三回、特別に半田商工会の主催にも参加して「私はお知らせをいただいています。」と言った時、「お知らせです

か。」と返事を戴き資料をお渡ししてきましたが、その都度「いつも資料を戴きありがとうございます。御座います。」と言われました。

私はいつの日か天皇を中心とした日本国を愛する歴史を語ってくれるのを楽しみにして約一年間ご縁を大事にしていきましたが、古事記の話を中心にして、昭和天皇の大喪の礼の「神聖画」に基づく「不戦の誓い」世界恒久平和の話には、少しも触れてくれることはありませんでした。

平成二十四年三月七日（水）「我が国の未来を左右する大問題」と題して参議院会館会議室で特別講演の予定を聞き、私の資料「我が国の未来を左右する大問題」を水野延子さんと大橋優子さんの二人に持たせ参加していただきました。

その講演は、**天皇を元首、自衛隊を自衛軍にする内容だったので、参加した二人は天皇家を語る竹田恒泰さんに疑問を感じたようでした。**

四月に参議院会館で「君が代」を題に特別講演会をすると聞いた時、竹田研究会事務所へ三月二十一日、「君が代発祥の地」の資料を皆さんにお配りいただけませんか？と、速達にて送りましたら、秘書の金子さんから二十三日水野延子さんに電話が入り、「宗教に加担する事になるから困ります。」と断りがありました。

君が代発祥の地を明らかにした本当の意味を伝えようとしても拒否されました。

この時から権力側は明治天皇の玄孫の名を利用して、全国に竹田研究会を広め自民党に圧勝させる応援をさせたことを改めて今感じています。

平成二十四年二月十二日（日）の名古屋講演会に参加した時、

民魂たみくまの意志いこころみちびく彦根ちゅうしんに

若わか（竹田恒泰）の御靈魂みたまに託たくすなりけり

と天皇家を補佐する竹田恒泰さまに詩で託しましたが残念無念の思いです。

その後、研究会には参加していません。テレビで話されることは聞いていますが資料だけは今も送り続けています

自民党野田聖子秘書金指さま

野田聖子さんの秘書金指さまから、八月六日（広島原爆の日）にお茶が届けられました。お礼の電話を掛け、野田さんの事務所へ神聖画が掲げてありますか？とお聞きしましたところ、掲げてあるそうです。

金指さまは数年前から私加古藤市の著書を読み、各地の神社を訪ね、平成二十一年三月二十三日、豊受庵を訪れたとき、「神聖画を野田聖子先生の事務所に掲げます。」といわれて、政治家に不戦の誓いの魂になっていただきたいと思われ、持ち帰って行かれました。前小泉首相のとき郵政民営で自民党を追い出されて、今又自民党に引き込まれ、

今は、民衆の言うことを聞き自分を生かしていく意志より、衆議院選挙で当選、参議院選挙で自民党が大勝し、権力勢力の安倍首相の言うことに何でも賛成していかなければ政治生命を続けて行く事が出来ない。」

と秘書の金指さまの電話のお言葉をそばで聞き愕然がくせんとしました。政治家は選挙の時は私をみなさん使つて下さい、と言つて立候補しますが、自分の生活を維持して行く経営者に変身してしまふのです。

投票した人達は世界恒久平和を求めているのでしょうか？

昨日も沖縄米軍基地でのヘリコプターの事故にしても、沖縄の方々がオスプレイ配備に反対をしている最中の事故、政府は

「勝手に反対をしていなさい。政府は何を言われても民衆に理解を頂くように説明していきます。」と言いますが、「軍備は敵をつくることで亡国への倫理みちとなるから理解することはできません。」と庶民側は政府に強く言い返しましょう。

沖縄の町長が事故原因究明を国に申し込み、国がアメリカに申し込んでもアメリカも、馬の耳に念仏で聞き入れようとしません。いつまでたっても解決することが出来ないのが現実です。

公明党創価学会の教祖

日蓮上人は（伊勢生成いせいになりの神かみ）の信徒です。

公明党は自民党と連立を組み、「憲法九条を改悪する自民党の暴動を止める役目が公明党である。」と信徒を騙だまし、経済こそ最優先と主張して原発を再稼動し、さらに原発を海外に輸出しようと、世界恒久平和を唱えながら、日本から戦争を世界に仕掛け混乱へと導いている権力側にいます。

世界恒久平和を迎えて行くのには、民衆が群れを為し政治家を追い詰めて行く事しかありません。庶民側のみんなさん戦っていきましょう。

小野俊一 「元東電原発技術者」 内科医が語る

フクシマの真実と内部被爆

参議院選挙の当日、七月二十一日 小野・出来田内科医院 小野俊一さまの講演会に私加古藤市も参加し会場はいっぱいでした。そして私の資料「日本の政治家・閣僚は日本国憲法を無視し、憲法違反をしています。」を持って行き、スタッフの方に「資料を皆さんにお渡しして下さい。」と申し込み何人かにお渡しました。講演の中休みに、小野先生の著書を購入して、「いなごのように戦いましょう」と直接サインをいただきました。そして講演の最後には「ここにお集まりの方々が交流を持って、群れとなって戦っていきましょう。」と言って下さいました。参議院選挙において無所属で立候補し、六十三万票を獲得し当選された山本太

郎さんは、3・11東日本大震災で原発事故を体験したことがきっかけで立候補され、切実の思いで民衆に訴えての当選でした。この魂の基もとにみんなが集まり、権力側の主張・嘘偽りを、庶民側の主張・真実の政せいに変え真の世界恒久平和を迎える為に邁進まいしんして行くことはありませんか。

必ず伊勢生成の神が応援して下さいます。

合掌

平成二十五年八月九日（長崎原爆記念日）

平成二十五年八月十五日の靖国神社

日本の神社庁は創造主が真理の神を伝えた日ノ本の歴史「伊勢神宮」を消し、神社に戦争で殉難死された人間を神に祭ってしまい誤りを犯しています。

お参りは静かに両手を合せて冥福めいふく（輪廻転生していく死後の幸福・来世の幸福）を祈り、御靈魂みたまの安泰あんたい（安らかになること）を捧げるたもつのです。

日本国は憲法第一条の象徴天皇・一二四代昭和天皇が憲法第九条「二度と戦争を致しません」と伊勢の神に「不戦を誓い」世界に発信した意志（戦いをしない愛情大国に進んで行く心）で参拝すれば、隣国周辺の国々の魂も混乱が起きないはずであります。

安倍首相は天皇（日本国が人類発祥の国・人祖家を継承している家柄）を無視して、自分が日本国の元首（自分が国王で何でも思ったことが出来ると考えている）であるかのよう九条改憲による国防軍の創設を模索しています。

政治家が憲法改正論をするようになった時期から昭和天皇も今上天皇も靖国神社へ参拝されていないのです。その場所について、「閣僚の参拝を本人の意志に任せる」というこの言葉は権力側（改憲）の考えに従えと言う事と同じなのです。

この度安倍首相は参拝をせず、自費で玉串料を代理に届けさせ、稲田明美行政改革担当相、新藤義孝総務相、古屋圭司拉致問題担当相の三閣僚。そして超党派

議連102人の靖国神社参拝は、昨年の二倍だったそうです。

憲法は信教の自由を認めているが、閣僚による戦争の出来る国になりますようにとの意志を持つ参拝となれば公的立場を伴ともなってしまうのです。賛否渦巻く中の参拝は見送るべきではなかったでしょうか。

「戦争の犠牲者、特に誤った政策判断で戦場に散ることを余儀なくされた戦没者を、指導的立場にある者が追悼し、慰霊するのは当然である」と国民に伝えませんが、慰霊の気持ちがあるなら「不戦の誓い」が出来るはずです。本当に何を成し遂げようと思っっているかの意志が伝わらないので中韓両国などが批判するのです。

これに日本の世論が内政干渉だと相手の意志（お互いに話し合おう）を解かろうとしないで反発しているのです。

韓国朴槿恵大統領パククネは「加害者と被害者という立場は千年の歴史が流れても変わらない」と言われ、十五日の演説では両国民が協力することを望んでいるとも強調し関係回復へのメッセージを出されています。

朴氏は日韓関係改善を重視していたアベノミクス政策を好意的に受け止めていましたが、「周辺国への配慮を欠く姿勢に変わってしまった。」と失望して

ます。

安倍首相は十五日の全国戦没者追悼式の式辞に、「周辺国へ「深い反省」と「哀悼の意」という歴代の首相が使った言葉を使わなかったのです。」

こんな悪循環はそろそろ断ち切る時期ではないでしょうか。

国家の指導的立場にある者は、対立の火に油を注ぐのではなく、知瑠恵を以って解決して行く役目があるはずですよ。

日本の政治を司る指導者は、中国や韓国の周辺が平和外交を求め対話の姿勢をしている時こそ、憲法九条を生かし、軍備で対抗するのではなく、友人となるために話し合いをして世界恒久平和に導く重大な責任があるのです。

生命界地球の成り立ちの歴史

生命を生み出し育て育む象徴・日輪太陽を天目一個命と呼び、一目連そだにつなはぐくみつつしようちようさんかいあめのまひとつのみこと繋がる三津・三界りんねてんしょう（天界・生命界・霊界）を輪廻転生していく基督きとくの神力氣しんりき（基本と成る神の力）が神であります。その世界には人間の驕りおごりは許されなく、みな平等に生きられるはずであります。

今年世界中で起きている猛暑・豪雨などの異常気象は、憲法九条を持っている日ノ本の国が環境破壊をしまつて反省も無く、経済を優先してきたことに、神が警鐘を示しているのです。早く日ノ本の国の頭首は気付いてください。

私加古藤市は生命界地球の宇宙産創造の成り立ちを夢で見せられ御啓示に従い現地を訪れ目の当たりにした日ノ本の歴史を二十五年間伝えてまいりました。

伊勢神宮を語りますと又宗教の話ですか？とキリスト教の教派・佛教の宗派を初め、数多い宗教を信仰している人々は、自分が信仰している宗教の枠から離れなくて、自分で心の扉を閉じてしまい、意志いし（物事を進んで考えて行こうとする心）の扉を開ける人が、今少なくなっているように感じております。

真理の神は一つ、誰もが望んでいる世界恒久平和を迎える為に、宗教の粹、
政党の粹を超え日本の指導者の暴走に歯止めをかけて、愛情大国に導いて行こう
ではありませんか・・・。

合掌

平成二十五年八月十八日

〒474・0056

愛知県大府市明成町一丁目一七五

三代目 東核芒種大伝道師 加古 藤 市

FAX 0562・44・0708

携帯 090・4855・8476